

2018/12/11

報道関係 各位

岡山初の「大腸」内視鏡外科技術認定医による 直腸がんに対するロボット手術開始

この度、川崎医科大学附属病院(倉敷市松島 577)において、最新式手術用ロボットである「ダヴィンチ・Xi」(da Vinci Xi Surgical System)を用いたロボット支援下腹腔鏡下直腸手術2例を安全に施行いたしました。岡山県下で初めての日本内視鏡外科学会が定める大腸手術分野での技術認定医により行われたロボット直腸手術です。

鶴田 淳 准教授(消化器外科学)は2018年11月と12月に、いずれも70歳代の直腸がん患者に対してロボット支援下腹腔鏡下直腸手術を施行しました。2例とも安全に手術は行われ、手術後の経過も順調で早期に退院されました。

ダヴィンチ手術執刀医



「チーム・ダヴィンチ・コロンの」メンバー



当院で使用する手術支援ロボットは、「ダヴィンチ・Xi」(da Vinci Xi Surgical System)で、アメリカの「インテュイティブサージカル社」で製造された最新の世代のものです。術者の手となるロボットアームは7自由度を持った繊細な動作が可能であり、かつ術者の目となる内視鏡システムは局所の鮮明な3次元画像をモニター出来る機能を有した優れた手術支援システムです。

(1/2)

2018年4月の診療報酬改定において「ロボット支援下腹腔鏡下直腸手術」は保険適用となりました。当院では同手術の安全な導入のために、十分な期間を設けて、ステップバイステップで準備を行なってきました。当院での医療倫理審査審議を行い、医学的、倫理的に同手術が適切であることを承認したうえで、2018年10月に院内の「ロボット支援下内視鏡手術に関するガイドライン」を策定致しました。またそれと並行する形で、鶴田准教授を中心に複数の消化器外科医師、手術室看護師、臨床工学技士らによる「チーム・ダヴィンチ・コロノ(大腸)」を結成し、約半年間に先行施設への約10回にわたる手術見学と数多くのカンファレンス、シミュレーションを重ねてきました。鶴田准教授は日本内視鏡外科学会の大腸部門の技術認定医で、これまでに約1,000例の腹腔鏡下大腸手術を手がけており、新しい手術の安全な導入と定着のための様々なノウハウを持ち合わせています。

全ての直腸がん患者がロボット手術の適応となる訳ではありませんが、複数の手術補助機能を統合し開発されたロボットは術者の遠隔操作により、精密で安定した動きによりストレスの少ない、より複雑で細やかな手術手技を可能にすることができ、また同時に3次元による正確な画像情報を取得できるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能となります。ロボット支援手術は、今までの内視鏡下手術の利点をさらに向上させうる、次世代の医療改革の一端を担った分野であると考えられます。

引き続き当院では「ダヴィンチ・Xi」によるロボット支援下直腸手術を安全に施行すべく、チームが一丸となって日々邁進していきます。

<問合せ先>

川崎医科大学 消化器外科学教室 准教授

川崎医科大学附属病院 消化器外科 副部長

鶴田 淳 (ツルタ アツシ)

Tel 086-462-1111(代)

(2/2)